

波頭を越えて

竹島レポート

第2部 ①

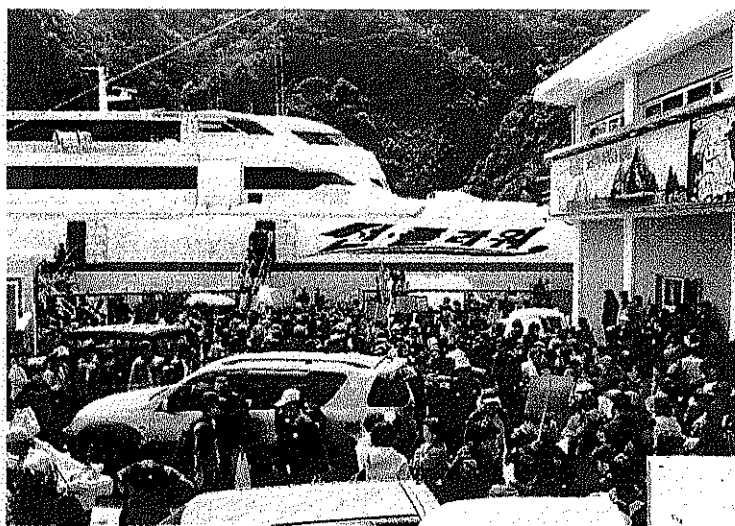
「独島ツアー・ドットコム」後、さきほど時間近くの船旅になる。竹島周辺の波は荒い

韓国東南部の慶尚北道東端の港、浦項(ポハン)港の待合室には、竹島(韓国名・独島)の写真をあしらった巨大な看板が掲げられていた。竹島への渡航船を運航している

韓政府は同道の要請を受け、竹島の実効支配強化の一環として、今年から竹島への訪問客数の制限を緩和し、1日最大400人から1888人へ大幅に増やした。

ソウルから浦項までは、鉄道や車を使い約4時間。竹島へ行くにはそこから鬱陵島へ3時間かけて渡った

鬱陵島の最前線観光



韓国・浦項から鬱陵島へ到着し、下船する観光客。観光シーズンが近づく4月、小さな港は連日大にぎわいだった

その先の「独島」なのだ、

海底火山の爆発で生まれた鬱陵島には、ほとんど平地がない。港からいきなり急坂が

広がり、島内を走る車はタクシーもすべて四駆だ。

鬱陵島(うつりょうとう) 韓国語ではウルソンド。朝鮮半島から約130km沖合の日本海に浮かぶ火山島で、面積約72平方キロ。住民は約1万5000人で、4割が漁業、2割が農業に従事している。かつては「干山国」と称し、512年に新羅に帰属。高麗、朝鮮へと引き継がれたが、朝鮮半島を襲う倭寇を恐れた朝鮮王朝は1417年以後約400年の間、入島・居住を全面禁止する「空島政策」をとった。竹島までの距離は約92キロ。



「独島観光船」は、訪れた4月中旬も満員だった。ただ、波が高かったため、朝の便は途中で引き返した。「ものすごく揺れたよ。明日も船は無理らしいし、残念だ」と中年男性が疲れきった表情で話してくれた。

「独島観光船」には竹島に上陸するコース、周辺を周遊するコースなど、いくつかの種類がある。島根県が「竹島の日」を制定した2年前は、運航会社が「日本人お断り」だったらしいが、現在は沈黙化し、希望すれば自由に乗船できる。ネット上には、実際に竹島へ渡ったという日本人のレポートもたくさん載っている。

だが、わが国固有の領土に、韓国の船で行くわけにはいかない。鬱陵島の展望台へ上がって見たが、ガスが出始めた暗い空の向こうには、島のかけらも望めなかった。

「独島観光」最前線の鬱陵島では、竹島に関する直接的な取材は控えられるを得なかった。案内してくれた鬱陵郡庁

島中に掲げられた竹島の写真や「わが国の領土」の文言は、もっと重い現実を物語っていた。「独島は韓国領」は、声高に叫ぶ必要のない、幼稚園児ですら知っている「一般常識」なのだ。

島あげて「韓国領」アピール

「独島観光」最前線の鬱陵島では、竹島に関する直接的な取材は控えられるを得なかった。案内してくれた鬱陵郡庁

わが国固有の領土でありながら、韓国が半世紀にわたって実効支配する竹島。韓国にとつての竹島問題をルポしながら、日本との温度差を浮き彫りにしたい。(竹島問題取材班)